

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和 4年 9月 13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400047		
法人名	株式会社 アップワード		
事業所名	上富田グループホームさくら		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒649-2105 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来2086番地の12		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町村受理日	令和4年10月17日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和4年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様おひとりおひとりに寄り添い、入居者様と家族様の意向に添ったケアの実現を目指しています。また入居者様の残存機能の維持をできるだけ継続していける様、調理のお手伝いや掃除等生活しぐとして取り入れています。毎日(雨天以外)散歩で外に出る機会をもつようにし、今年はコロナ禍の為行えませんでした。行事で外食等を取り入れ、変化のある日常も体験していただけるよう努力しています。(今年の外食は入居者様の希望を聞き、テイクアウトしました)。月に2回の往診日以外でも、常時連絡がとれるようメールやSNSで連携を取っています。ターミナルケアを実施しており、現在まで10名の看取りをさせていただきました。職員の勉強会では、認知症ケアの知識を深めると共に、ターミナルケアの勉強会も毎月開催、また、身体拘束ゼロ(現在身体拘束は行っておりません。)を掲げ、適切な行えるよう、勉強会を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

現在コロナ禍により、様々な制限を設けざるを得なくなっていますが、その環境下でも近隣にある空き地へ散歩に毎日行ったり、サービス向上委員会を事業所内で設立し、向上委員が主になりアンケートを取り、利用者の希望が多かった回転寿司でテイクアウトを注文する等、創意工夫しています。また、地域住民との関係性として、自治会や町会には加入していませんが、SNSで繋がっており、地区の溝掃除や草刈りがあればお互いに連絡を取り合い、事業所スタッフが協力するといった良い関係性を築いています。町との連携としては、町主催のキャラバンメイト養成講座にはほとんどのスタッフが受講し、認知症サポーターとして、事業所内のみならず、町全体の認知症啓発活動にも参加できるシステムを作り上げています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関ホールとリビングに掲示しています。また月1回の全体会議では出席職員全員で唱和しており、職員間で共有実践しています。	理念は開設時にスタッフの方々で検討したものを現在も使用しています。月一度の会議においてスタッフ全員で唱和し、共有に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（文化祭り・町内会の清掃等）には積極的に参加しており、年1回の夏祭りでは地域の方々にホーム内で過ごして頂けるよう開放しています。今年もコロナ禍の為、施設職員と入居者のみで開催しました。	町内会には加入していませんが、SNSで地域住民と繋がり、溝掃除や草刈りをスタッフが住民とともにこなっています。また、コロナ禍前は夏祭り前にチラシ配りをし、地域住民の方々と積極的に交流していました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談に来られた時や面会時間等、お悩みのご家族にお話を聞いたり、認知症の対応の相談や社会資源の活用方法等のアドバイスをさせて頂いています。今年もコロナ禍の為、電話等で対応しました。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4金曜日に開催し状況報告を行っています。出席して頂いた方から地域のイベント情報利用者様の生活等情報交換しサービスの向上に生かせるよう参考にしていきます。今年もコロナ禍の為文書開催しています。	コロナ禍前は町役場の長寿課・地域包括・民生委員・利用者家族に参加してもらっていましたが、現在は書面でのやり取りでの対応をせざるを得なくなっています。書面は全ての関係者に送付しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町役場の長寿課、地域包括、民生委員、利用者の家族様に参加頂き、毎回活発な意見交換を行っています。今年もコロナ禍の為、電話連絡にて連携しています。	町主催の研修に積極的に参加しており、キャラバンメイトはほとんどのスタッフが認知症サポーターになっており、町職員との関係性は良好で、話合える環境にあります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	リビングから玄関ホールへの扉は職員の見守りが行き届かない時間帯のみ施錠。（主に夜勤帯）身体拘束防止委員会を設置し、月1回の委員の勉強会と、報告連絡を行っています。	事業所と道路は接地しており、完全開放にはいきませんが、日中は玄関の施錠を外し開放しています。月一度の全体会議等において、身体拘束防止委員会による報告や検討を実施し、他のスタッフに周知しています。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員会を設置し、月1回適切なケアが行われているか会議での話し合い報告、ケアの統一をしています。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修会に参加し、学んだ事を全体会議で伝え周知し、実践につなげています。利用者様が自らの能力で出来る限り自立した日常生活を送って頂けるよう支援させていただきます。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書を丁寧に説明し、納得頂いた上で署名捺印頂いています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>サービス向上委員会を設置し、入居者様、ご家族様の意見をお聞きし出来るだけ添えるよう努めています。またご家族様ご面会時には日頃の様子をお伝えし、意見を頂き運営や支援に反映出来るよう努めています。</p>	<p>事業所内でサービス向上委員を設定し、利用者や家族にアンケートを取り、イベント等を決定しています。少し前は回転寿司チェーン店でテイクアウトをしています。また、面会が現在できないので、電話にて家族とやり取りし、利用者と家族が話せる環境を作っています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日々職員に気配りや声掛けを行い、意見や相談事が言いやすい環境づくりに努めています。</p>	<p>年一回自己評価による個別面談をしており、その際に管理者はスタッフ各々に業務に関する意見を聞き、上部に伝達するシステムができています。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の勤務状況を把握し、やりがいをもって働くことができ、ストレスを溜めないような環境づくりを務めています。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には積極的に参加するよう勧めています。職員のスキルアップの為にバックアップを行っています。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>会議研修等を通じて、同業者との情報交換や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めています。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談において出来るだけ詳しくご本的心情や要望をお聞きするよう努めています。ご本人からはお聞き出来ない事はご家族様からお聞きし、安心して暮らして頂けるよう支援させていただきます。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からはお聞き出来ない事はご家族様からお聞きし、安心して暮らして頂けるよう支援させていただきます。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複数のニーズの中から、ご本人ご家族様にとって何を優先すべきかを考え、ケアプランに位置付けています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬を持って接しています。いつもの顔なじみの職員がいることで家屋のような関係を築き安心して過ごして頂けるよう努めます。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた際には、日々の生活の様子を伝え、変化等あれば必ずお電話にてご連絡、ご相談させていただいています。1ヶ月に1回生活の様子をお手紙で報告し、行事参加の呼びかけもしています。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	以前生活されていた家の近所の方の面会等も家族様の許可を得てして頂いています。面会時には居室でゆっくりお茶を飲みながら会話して頂けるよう雰囲気作りに努めています。現在はコロナ禍で面会を中止しています。	現在コロナ禍により、面会はできませんが、電話を取り次ぎ、家族と利用者との関係性を途切れさせないように配慮しています。また、以前からの馴染みの美容室に家族による援助でいったり、お墓参りにいったりと柔軟に対応しています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の会話の中で職員が橋渡しをし、入居者様同士が孤立することなく仲良く居られる配慮をさせていただいています。プライバシーを保ちつつ、リビングに自然に集まって楽しめるような場になっています。		

22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、ご家族様とはご連絡をさせていただいており、ご商売をなさっている家族様のお店から、おやつのテイクアウトなども利用させていただいています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望に沿うように努めています。ご本人の意思確認が困難な場合には、ご家族様よりお聞きしています。	入居前のインテークによりアセスメントを取り、本人・家族の意向にできるだけ沿うように努力しています。アセスメント表にはファミリーマップも記載されており、家族と利用者の関係性が視覚的にも分かるようになっていきます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様、これまでかかわってきたケアマネやサービス事業所から情報収集を行い、聞き取りした事は「入居前情報」として全職員が把握するようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の毎日の様子を介護記録に残し、変化等あれば業務引継ぎ時の申し送りにて伝達し情報の共有をしています。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族様、職員それぞれに意見を聞き、3か月に1回ケアプランの見直しを行っています。また、毎日の支援がケアプランに沿ったものであるか、問題点はないかをチェックしています。	基本的に介護計画、モニタリングとも3か月に一度見直ししていますが、利用者の身体状況に応じ、それ以上に短期間で見直す時もあります。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、個別にファイルしており、職員はいつでもその記録を見ることができます。記録はケアプランの見直しやモニタリングの際に役立っています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人のニーズの違い、また同じようなものであってもADLや環境その他の状況に代て生じるサービス内容の違いをその都度ご本人、ご家族、職員と共にその人に合った支援方法を常に考えています。	

29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在はコロナ禍の為、ボランティアさんをご遠慮いただいておりますが、マスク不足の際には手づくりマスクの差し入れがボランティアさんよりありました。</p>			
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>連携医による月2回の往診とご本人様が馴染みの主治医や専門医の受診を希望の場合、通院の支援をしています。連携医とは24時間待機態勢で連携を摂れるようにしており、入居者様の定期健診も行っています。</p>	<p>かかりつけ医を継続することは可能ですが、現在入居されている方のほとんどは連携医を利用しており、月2回の往診を受けています。かかりつけ医や専門医への受診は、職員が支援しており、各主治医や専門医と密な連携を図っています。連携医による24時間のサポート体制も確保しています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週1回訪問看護師にて入居者様の健康管理をしています。職員への療養上のアドバイスや主治医との連携夜間の緊急対応もしています。入居者様の日々の状態を確実に伝えた確かな医療が受けられる態勢を整えています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際には「速やかに医療機関に紹介提供を行い、入院中は病院関係者と連携を取りながら状況把握に努めています。退院前には必ずカンファレンスを行い、病状の確認をしています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居相談や契約時に重度化やターミナルケアについての説明を行っています。ターミナルケアについては内部研修を行い、病状の確認をしています。</p>	<p>看取りに関してホームとしての経験は豊富です。入居時や契約時に看取りの説明を行うが、その時期になった時、主治医や管理者も参加し、本人や家族の意向を確認しています。看取りを希望された場合は、訪問看護を導入するなどホームでできること、今の状態、これからの予測など、医療的なことや介護に関することを説明し、職員間でも情報共有し、経験のない職員がいる場合には、勉強会等を行っています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故・感染症の発生時の対応についてマニュアル化し、職員間で話し合いを徹底しています。</p>		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施。うち1回は消防立ち合いのもと訓練をし、指示をもらっています。災害時には地域の方々の一時的な避難場所としての利用も呼びかけています。	年2回夜間（うち1回は消防署立ち会い）の火災や震災を想定した避難訓練を実施しています。訓練には、利用者も参加しています。訓練では、避難経路・場所・通報方法・消火活動、利用者毎の身体状態に合わせた避難移動方法について確認しています。備蓄品は、3日間確保しています。	
----	----	--	---	---	--

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりの今までの生活歴を把握し、人生の先輩として尊敬を持って対応させていただいています。特に言葉使いには気を付けています。	利用者一人ひとりの人格と尊厳を大切に対応しています。その人らしい暮らしを支援して、プライバシーを尊重しています。苗字で利用者の方を呼んでいますが、時に、家族の意見で本人がより安心できるような呼び方に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を表しやすい環境づくりに努め、無理せず自己決定されたことにたいして共感し支援させていただきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせ、入居者様が自由に過ごせるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝巻のメリハリをつけ、自分の好みで服を選んでいただけるよう配慮しています。2ヶ月に1回の訪問理美容に2名来てもらい、好みの理美容師にカットしてもらっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て職員の手作りです。入居者様にも、皮むきやゴマすりなどお手伝いして頂きます。お誕生日には「リクエストメニュー」として食べたいものをお聞きしています。今はコロナ禍の為外食の代わりにテイクアウトでお好きなものを選んでいただいています。	食事の盛付け、配膳、後片付け等、一連の作業を利用者と共に職員が行い、一緒に食事を楽しむ環境づくりや食の形態の工夫に努めています。コロナ禍で外食ができないが、テイクアウトで利用者の好みとするものを選んで楽しんでいます。	

41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を時系列でチェックしています。入居者様の好みを把握し、摂取量が少ないときは摂取出来そうな種類、形態に変更する等、臨機応変に対応できるようにしています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを行っています。自身でできる方は見守りと、仕上げをさせていただいています。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表にチェックしながら、適宜トイレ誘導を行っています。座位保持が難しい方以外は日中トイレに座って頂いています。トイレの場所がわかりやすいよう工夫しています。	排泄表を作成され、日頃の記録より排泄パターンの把握に努め、個々の状況に応じた対応を行い、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援されています。また、トイレの場所がわかりやすいよう工夫しています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルト果物を提供、屋外への散歩やラジオ体操など、適度な運動を行っています。排便に関しては、医師、訪問看護と相談の上、お薬などで調整らせていただいています。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週に2回朝から1日あり、できるだけ希望に添えるよう対応しています。また、月2回温泉の日として入浴剤を楽しんで頂いており、「いい匂い」「ぬくもるわ」等と喜ばれています。	入浴日は週2回の予定があり、その他希望があれば随時の対応が可能です。月2回温泉の日として入浴剤を使用し、入浴を楽しむことができます。入浴を楽しむことのできるような支援に努めています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間や整容等、入居者様の希望に沿って対応させていただいています。夜間はゆっくりお休み頂けるよう静かな環境作りに努めています。就寝、起床は入居者様のペースに合わせています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとのお薬の詳細をファイルしています。服薬時には最低3回の確認を行い、服薬前には職員同士声掛け確認をし、誤薬等の事故のない様にしています。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の趣味の継続、できることの継続等やりがいを感じて頂けるような事をして頂けるようにしています。また、日々の会話の中で希望等あれば、行事やレクリエーションに反映しています。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在コロナ禍で外出は控えていますが、普段は職員と一緒に買い物に行っていただいています。また行事として遠足や外食、地域の行事への参加等計画し、取り組んでいます。	現在コロナ禍で外出は中止していますが、周辺の散歩は日常的にされています。また、コロナの感染者数が減少した際は、遠足や外食等計画しています。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は事務所で保管させていただいていますが、希望があれば少額は自身で管理されることもあります。好きなためものや衣類等の買い物ができ、支払いを自身でして頂けるよう、支援しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば職員が付き添って事務所の電話を使って頂いています。また家族様からのお電話も取次させていただいています。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に行事写真や、手作りの作品を掲示し、雑誌や新聞等を設置し、くつろげる空間作りをし、皆が集えるようにしています。	共用スペースは、利用者の作品と共に季節を感じる飾り付けが行われています。三人掛けソファ、テレビ、雑誌や新聞等を設置し、快適に過ごせる空間づくりに配慮しています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、テレビを設置し、自由に過ごして頂けるようにしています。対面式キッチンには必ず職員がおり、常に見守りの状態です。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた家具などを持ち込んでいただくようお願いしています。大きなタンスや仏壇なども居室に置かれており、家と同様に過ごして頂けるようにしています。	愛用品や家具、写真等を持ち込まれ落ち着いた過ごして頂けるような空間づくりをしています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にできるだけ自立した生活をして頂けるように、全館バリアフリーで手すりを設置しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない